令和９年度（2027年度）
日本大学大学院
総合基礎科学研究科

博士前期課程・博士後期課程　一般入学試験要項

※外国人留学生の方へ

一般入試に出願する留学生は，出願前に「事前連絡」が必要です。

① 事前連絡期間

博士前期課程（第1期）出願者：令和８年７月23日（木）～８月６日（木）

博士前期課程（第2期）出願者：令和８年12月１日（火）～12月14日（月）

博士後期課程出願者：令和８年12月１日（火）～12月14日（月）

② 事前連絡方法

chs.kyomu@nihon-u.ac.jp **宛てにメールを送信。その際，以下の内容を記載。**

件名「大学院事前連絡」と入力。

本文に（1）氏名（2）電話番号（3）志望専攻（4）志望指導教員を記入し，

（5）研究計画書を添付して，メールで送信。

◆募集人員

専攻＼課程	博士前期課程	博士後期課程
地球情報数理科学専攻	12名	2名
相関理化学専攻	23名	2名

◆入試諸日程

種別		出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
博士前期課程	第1期	令和8年 9月 1日（火） ～ 9月 9日（水）	令和8年 9月26日（土）	令和8年10月 9日（金）	令和9年 2月26日（金） ～ 3月11日（木）
	第2期	令和9年 1月12日（火） ～ 1月20日（水）	令和9年 2月13日（土）	令和9年 2月24日（水）	令和9年 2月26日（金） ～ 3月11日（木）
博士後期課程		令和9年 1月12日（火） ～ 1月20日（水）	令和9年 2月13日（土）	令和9年 2月24日（水）	令和9年 2月26日（金） ～ 3月11日（木）

◆試験科目

課程		試験科目	試験時間
博士前期課程	第1期	筆記試験 専門科目：各専攻の専門科目 外国語：英語※ 口述試験	10：00～12：00 13：00～14：00 14：40～
	第2期	筆記試験 専門科目：各専攻の専門科目 情報科学部門及び基礎数理部門は各部門の共通問題に加えて，出願時に選択した分野の選択問題を受験する。（第2期入学試験のみ） 【情報科学部門】データサイエンス，メディア処理，インタラクション，数理情報のうち1分野を選択 【基礎数理部門】解析，幾何，代数，数学教育　のうち1分野を選択 外国語：英語※ 口述試験	10：00～12：00 13：00～14：00 14：40～
博士後期課程		筆記試験 外国語：英語※ 口述試験	13：00～14：00 14：40～

〈備考〉英語については辞書（英和及び和英）の使用を認める。ただし，電子辞書の使用は認めない。

※外国語：英語について

①各専攻部門により，以下のとおりとなります。

地球情報数理科学専攻		相関理化学専攻	
地球環境部門	外部テストのスコアを利用	物理学部門	外部テストのスコア又は独自問題のいずれかを選択
情報科学部門	外部テストのスコアを利用	生命科学部門	外部テストのスコアを利用
基礎数理部門	外部テストのスコアを利用	化学部門	外部テストのスコア又は独自問題のいずれかを選択

出願時に外部の英語資格・検定試験のスコアシートを提出した場合は，以下の換算基準表により外国語の得点となります。
独自問題を受験することはできません。

②提出の対象となる外部テストのスコアシート（以下のうちから1つを選択）
TOEIC，TOEFL，英検CSEスコア，IELTS，TOEIC-IP（文理学部で実施したもの），
TOEFL-ITP（文理学部で実施したもの）

【換算基準】		100点に換算	90点に換算	75点に換算	60点に換算	45点に換算	30点に換算
TOEIC L&R		950以上	785以上	668以上	550以上	230以上	120以上
TOEFL iBT®	0-120 スコアスケール	95	72	57	42	－	－
	1-6 スコアスケール	5以上	4以上	3.5以上	3以上	－	－
実用英語技能検定CSEスコア		2,600以上	2,304以上	2,150以上	1,980以上	1,700以上	1,400以上
IELTSアカデミック・テスト		7.0以上	5.5以上	5.0以上	4.5以上	－	－
TOEIC-IP（文理学部で実施）		950以上	780以上	665以上	550以上	250以上	120以上
TOEFL-ITP（文理学部で実施）		620以上	543以上	488以上	433以上	343以上	－

※受験日が出願締切日から2年以内のスコアを有効とする。
※各資格・検定試験のスコアが換算基準の最低点に達していない場合は外部スコアを使用した試験の受験を認めない。

◆出願資格

博士前期課程

1. 大学を卒業した者及び令和 9 年 3 月卒業見込みの者
2. 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び令和 9 年 3 月までに学士の学位を授与される見込みの者
3. 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 9 年 3 月修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 9 年 3 月修了見込みの者
5. 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和 9 年 3 月修了見込みの者
6. 外国の大学等において，修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより，学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和 9 年 3 月 31 日までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
7. 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であること，あるいはその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和 9 年 3 月修了見込みの者
8. 文部科学大臣の指定した者
9. 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって，本大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者〔(注) を参照のこと〕
10. 本大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，22 歳に達した者及び令和 9 年 3 月までに 22 歳に達する者〔(注) を参照のこと〕
11. 大学に 3 年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって，本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めた者〔(注) を参照のこと〕

博士後期課程

1. 修士の学位若しくは専門職学位を有する者及び令和 9 年 3 月までに取得する見込みの者
2. 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和 9 年 3 月までに授与される見込みの者
3. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専

門職学位に相当する学位を授与された者及び令和 9 年 3 月までに授与される見込みの者

4. 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和 9 年 3 月までに授与される見込みの者
5. 国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和 9 年 3 月までに授与される見込みの者
6. 外国の学校，上記第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代える審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
7. 文部科学大臣の指定した者
8. 本大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，24 歳に達した者及び令和 9 年 3 月までに 24 歳に達する者〔(注) を参照のこと〕

(注) 博士前期課程の出願資格 9・10・11 及び博士後期課程の出願資格 8 該当者については，入学資格審査を行いますので，事前に大学院総合基礎科学研究科入試係に出願者調書の書式を請求のうえ，以下の［入学資格審査･外国人留学生事前連絡期間］に出願者調書（本学所定用紙）及び出願書類（入学検定料を除く）を市販の封筒を使用して，大学院総合基礎科学研究科の入試係に書留郵便で送付してください。なお，出願書類は，入学資格審査が終了するまでその受理を保留します。

※上記出願資格について「見込み」で受験し合格した場合で，令和 9 年 3 月 31 日までに入学資格を得られない場合は，入学が許可されないことになります。

※外国人留学生の方へ

出願前に総合基礎科学研究科入試係（**7 ページ**）へ以下の［入学資格審査・外国人留学生事前連絡期間］に事前連絡をしてください。

［入学資格審査・外国人留学生事前連絡期間］

博士前期課程（第 1 期）出願者：令和 8 年 7 月 23 日（木）～令和 8 年 8 月 6 日（木）
博士前期課程（第 2 期）出願者：令和 8 年 12 月 1 日（火）～令和 8 年 12 月 14 日（月）
博士後期課程出願者：令和 8 年 12 月 1 日（火）～令和 8 年 12 月 14 日（月）

※身体の機能に著しい障がいのある方は，受験及び修学が困難な場合がありますので，出願前のできるだけ早い時期に，必ず総合基礎科学研究科入試係（**7 ページ**）にお問い合わせください。

◆出願手続及び出願方法

1. 出願書類

[博士前期課程・博士後期課程　共通]

① 大学院入学志願票（本学所定の用紙）　※2 枚にわたります。
② 最終出身学校の成績証明書（卒業・修了見込み含む)。
③ 卒業証明書又は卒業見込証明書（博士後期課程出願者は博士前期課程の修了証明書又は修了見込証明書。また，博士前期課程の出願資格 10 及び博士後期課程の出願資格 8 該当者は，最終出身学校の卒業証明書)。ただし，学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者又は授与される見込みの者は，学位授与証明書またはその申請をする予定である旨を記入した，在籍短期大学長又は高等専門学校長の証明書も併せて提出してください。
④ 研究指導予定教員承諾書（本研究科所定の用紙)。
⑤ 英語外部テストの成績に関する証明書
（※外部テストのスコアを外国語の得点として利用する志願者のみ）
⑥ 受験票返送用封筒（本学所定の受験票返送用宛名ラベルに「志願者の住所」,「氏名」を明記し，市販の長 3 封筒に貼付。切手は貼付不要)。
⑦ 入学検定料振込控えのコピー（「2. 入学検定料」参照)。

[博士前期課程のみ]

・調査書（本研究科所定の様式）

[博士後期課程のみ]

・研究業績リスト（本研究科所定の様式）
・研究計画書（本研究科所定の様式）
・修士論文の要旨（出願資格 8 該当者は研究業績リスト及び代表的論文等の写し）

2. 入学検定料

３５，０００円

以下の銀行口座にお振込みください。振込手数料は，振込人のご負担となります。「ご利用明細」など振込控えのコピーをＡ４用紙に貼付したものを出願書類に同封してください。

① 振 込 先　三井住友銀行　下高井戸支店（支店番号 255）
口座番号　普通預金　８６０００
名 義 人　ニホンダイガクブンリガクブ（日本大学文理学部）
※依頼人名義については,「入学区分コード（２桁)・志願票氏名」の順で入力してください。
【入試区分コード】
博士前期課程第１期　→　７３
博士前期課程第２期・博士後期課程　→　７７
例：博士前期課程第１期に日大太郎さんが出願する場合→７３ニチダイタロウ
② 納入期限　出願書類の提出に間に合うよう納入してください。
※振込控えの原本を本研究科に郵送された場合，返還はいたしません。
※振込控えに預金残高などが印字されている場合は,「振込日時」「振込先」「入試区分コード・志願者氏名」「振込金額」以外は，塗りつぶしてコピーしても構いません。

＜入学検定料返還について＞

納入した入学検定料は，次の場合を除き，いかなる理由があっても返還しません。

① 入学検定料を納入したが，出願書類を提出しなかった場合

② 入学検定料を納入し，出願書類を提出したが，出願が受理されなかった場合

3. 出願方法

(1) Ｗｅｂ登録（志願情報を入力）
以下の URL 又は右の二次元コードから出願締切日（1 ページ参照）までに志願情報を入力してください。
https://forms.gle/7LyX83ZVJXfKEcLQ9

(2) 以下の書類をＡ４用紙に印刷・記入の上，出願書類を郵送してください。
・日本大学大学院入学志願票・写真票・整理票・受験票（Ａ４用紙 2 枚）
・受験票返送用宛名ラベル
・出願用宛名ラベル

① 出願書類	4 ページを確認してください。
② 入学検定料振込控え	
③ 受験票返送用封筒	受験票返送用宛名ラベルに，「郵便番号」，「志願者の住所」，「氏名」を明記し，長 3 封筒（Ａ４用紙三つ折りが入る大きさ）に貼り付け，出願書類一式と共に同封してください。返送用の切手は貼り付けないでください。

角 2 封筒（Ａ４用紙が入る大きさ）に，印刷・記入した「出願用宛名ラベル」を貼付し，総合基礎科学研究科入試係宛に**簡易書留**郵便で郵送してください。出願締切日（1 ページ参照）までに郵送必着です。各出願期間の最終日は日本大学文理学部教務課で窓口受付を行います。(16：00 まで)

※Ｗｅｂ登録後，入学検定料振込，「出願書類」を大学が受理した時点で出願完了となります。
Ｗｅｂ登録又は出願書類の郵送のいずれか一方だけでは出願完了となりません。
なお，インターネット環境等により入力ができない場合は，事前に総合基礎科学研究科入試係（☎０３－５３１７－８４９７）まで御連絡下さい。
いったん提出された出願書類は，返却いたしません。

【個人情報の取扱いについて】

出願書類に記載された志願者本人及び保証人の氏名，住所，生年月日及びその他の個人情報は，入学試験の出願受付，実施，合格発表，さらには入学に至る一連の手続と，必要となる書類・お知らせ等の送付及び入学者データの統計処理のために利用します。

また，これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合は，当該業務の委託を受けた業者は，上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

◆入学志願票記入上の注意

※ 入学志願票の記入は，万年筆かボールペン（黒又は青）を使用し，必ず本人が丁寧に記入してください（消せるボールペンは使用しないでください)。

※ 出願に際して，志願票，写真票，整理票，受験票は切り離さずに送付してください。

A. 志願票

1. 「試験区分」・「志望課程」欄は，志望する方を〇で囲んでください。
2. 「志望研究科」欄に志願する研究科名を，「志望専攻・系」欄に志願する専攻名を記入してください。
3. 「学部または修士の論文のテーマ」と，「今後の研究テーマ」を記入してください。
4. 「氏名」欄には，必ずフリガナをカタカナで記入してください。
   なお，外国籍の方が通称名を用いる場合は，住民票に記載されている通称名に限ります。
5. 「性別」欄は，該当する方を〇で囲んでください。
6. 「年齢」欄は，令和 9 年 4 月 1 日現在で記入してください。
7. 「生年月日」欄は，月・日が 1 桁の場合は十の位に 0 を記入してください。
8. 「連絡先住所」欄は，書類不備等緊急の場合に必要となりますので，連絡がとれる住所を記入してください。郵便番号は 7 桁で記入してください。電話番号は日中連絡のとれる番号を記入してください。差し支えのない方は，メールアドレスを記入してください。
9. 「学歴」欄と「職歴・研究室」欄は，該当する箇所のみ記入し，必要な箇所を〇で囲んでください。
10. 「保証人」欄には，保証人の氏名，郵便番号（7 桁)，住所，電話番号を記入してください。

B. 写真票

1. 志願票を参考に記入してください。また，「照合印」欄は何も記入しないでください。
2. 「写真貼付欄」には，最近 3 か月以内に撮影した正面上半身・脱帽で，背景の無い縦 4㎝×横 3㎝のもの（カラー）をはがれないように裏全面を糊で貼り付けてください。受験票にも同じ写真を貼りますので，1 つの志願票につき，同じ写真が 2 枚必要になります。
   なお，試験中に眼鏡を使用する人は，眼鏡をかけた状態で写真を撮ってください。

C. 整理票

1. 志願票を参考に記入してください。

D. 受験票

1. 志願票を参考に記入してください。ただし，「受付」欄には何も記入しないでください。
2. 「写真貼付欄」には，「B. 写真票」を参考に同じ写真を貼ってください。

◆受験上の注意

試験当日は，身分証明書（学生証・マイナンバーカード・パスポート・運転免許証・在留カード等（氏名及び生年月日の記載があり，顔写真付きで，試験日において有効なもの)）の持参を必須とします。

不正行為が疑われる場合や受験票を持参し忘れた場合など，本人確認のために提示を求めることがあります。

◆入学手続

1. 合格者は，指示された期限までに，入学時納入金を納め，入学手続を完了してください。
2. 入学手続完了後（入学時納入金を全額納入した後）に，やむを得ない理由によって本学への入学を辞退する場合は，電話により令和 9 年 3 月 31 日（水）17 時までに入学を辞退する旨を本研究科の入試係へ申し出てください。
   申し出を受理しますと，「入学辞退願」を本研究科より送付いたしますので，必要事項を記入の上，既送の「入学許可書」と併せて速やかに返送してください。
   手続き終了後，入学金を除く入学時納入金（諸会費等を含む）を返還いたします。ただし，いったん提出された入学手続書類及び入学金は返還いたしません。
   なお，令和 9 年 4 月 1 日（木）以降に申し出があった場合は本学に学籍が生じておりますので，入学手続書類及び入学金を含む入学時納入金は返還いたしません（傷害保険については，約款の定めるところによる）。
   《注意》 ① 入学辞退の申し出受理に際しては，直接本人の意思確認をさせていただきます。
   ② 入学辞退の申し出を，本学が受理した後の辞退の取り消しは認めません。
   ③「入学辞退願」が提出されない場合，入学金を除く入学時納入金の返還手続きができませんので，必ず提出してください。
3. その他，詳細は合格後配布される入学手続要項を参照してください。

◆出願書類の送付先及び試験場

総合基礎科学研究科

【送付先】 〒 156-8550　世田谷区桜上水 3-25-40
☎０３－５３１７－８４９７（総合基礎科学研究科入試係）

【試験場】 日本大学文理学部

【交　通】 京王線・東急世田谷線「下高井戸」駅下車　徒歩 8 分
京王線「桜上水」駅下車　徒歩 8 分

◆令和 8 年度　入学者納入金（参考）

項目 / 課程	◎入学金	授業料	施設設備資金	実験実習料
博士前期課程	200,000	② 700,000	1～2 年次 ② 300,000	② 80,000
博士後期課程	200,000	② 700,000	1～3 年次 ② 300,000	② 80,000

項目 / 課程	初年度納入金額	入学時最小限納入金額	第 2・3 年次
博士前期課程	（学内） 1,080,000 （学外） 1,280,000	（学内） 540,000 （学外） 740,000	② 1,080,000
博士後期課程	（学内） 1,080,000 （学外） 1,280,000	（学内） 540,000 （学外） 740,000	② 1,080,000

〈備考〉 1. 金額の単位は円。◎印は入学初年度学外者のみ納入（学内者は免除）。②は分納回数。
2. 表中に記載の（学内）は，本学を卒業した者又は本学大学院を修了した者。
3. 上記の他に後援会費を年額 3 万円，日本大学校友会準会員会費を毎年 1 万円納入。
また，修了年度に日本大学校友会正会員会費初年度分を 1 万円納入。

◆奨学金制度（令和８年７月現在）

大学院生を対象とした本学独自の奨学金制度は下記のとおりです。また，日本学生支援機構奨学金，地方公共団体奨学金等も受けることができます。

種　別	金　額	人　数
古田奨学金	20万円	1名
ロバート・F・ケネディ奨学金	20万円	1名
文理学部奨学金	（第1種）40万円	4名（大学院生全体）
	（第2種）40万円	1名（外国人留学生）
文理学部後援会奨学金	24万円	70名（学部生を含む）
文理学部校友会奨学金	24万円	15名（学部生を含む）
大学院生特別奨学金	授業料相当額	古田奨学金及びロバート・F・ケネディ奨学金受給者
日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金	授業料相当額の半額	若干名（外国人留学生）
大学院博士後期課程奨励研究費	15万円	博士後期課程在学者（休学者除く）
大学院学術論文奨励助成金	審査のうえ決定	
大学院生学会発表補助金 ※支給上限額あり	（国内）旅費・交通費	
	（海外）航空運賃相当額	

総合基礎科学研究科が目指すもの（教育研究上の目的）

本研究科の目標は自然と人間との共生という理念のもとに，地球に優しい科学・技術の探求と確立を目指すところにある。本研究科は，地球情報数理科学専攻と相関理化学専攻の２専攻から構成され，多彩な境界領域で接する両専攻が横断的に結ばれているところに特色があり，それぞれの学問領域を融合させた総合的な教育・研究を通じて，以下に記した特色ある人材の養成を目指している。

１　専門の分野に対して，深い学識と優れた思考力を持つ人材の養成
２　専門分野や関連分野を幅広く理解し，それらを柔軟に応用できる人材の養成
３　新しい社会や産業の動向を迅速に解析し，広範な知識と能力を発揮できる人材の養成
４　学際的学問領域の学習を通じて，新しい学問の芽を育てる創造性豊かな人材の養成
５　国際的視野と見識で新しい科学技術の問題を正視できる人材の養成

総合基礎科学研究科の学位

博士前期課程は，所定の年限在学し，専攻科目について３０単位以上を修得，必要な研究指導を受け，更に修士論文の審査及び最終試験に合格した者に，**修士（理学）**の学位が授与されます。

博士後期課程は，所定の年限在学し，両専攻共通の単位取得を伴う授業科目（２単位）の修得及び必要な研究指導を受け，博士論文の審査及び最終試験に合格した者に，**博士（理学）**の学位が授与されます。

1　地球情報数理科学専攻

①　博士前期課程

地球情報数理科学専攻は，地球科学，情報科学，並びに数理科学を主な研究分野とし，これら３分野の複合化を目指しています。

本専攻は，情報科学部門を中心に，地球科学と数理科学両面から学際的に協力し合うことを目標とした地球環境部門と基礎数理部門の計３部門から成り立っています。３部門の内容は次のとおりです。

地球環境部門：地球各圏の相互関係及び地球を構成する物質の研究

地圏科学，水圏科学，気圏科学等の分野から現在の研究の流れを理解し，地球各圏の総合的な相互関係と地球を構成する物質の基礎研究を行います。

情報科学部門：情報科学の基礎的側面の研究

コンピュータ科学，数理情報科学とソフトウェア科学における様々な課題を研究するとともに，これらの応用を研究します。

基礎数理部門：数学の基礎的側面（代数，幾何，解析）および数学教育の研究

代数学，代数幾何学，特異点論，位相幾何学，解析学，確率論などの分野についてそれらの手法を展開させて研究を行います。また，教職を視野に入れて数学教育学の研究を行います。

②　博士後期課程

地球情報数理科学専攻は，地球科学，情報科学，並びに数理科学を主な研究分野とし，これら３分野の複合化を目指しています。

本専攻は，地球環境部門・情報科学部門及び基礎数理部門から成り，この３部門が学際的に協力し合うことを目標としています。

地球環境部門：地球を構成する物質の研究に基礎を置くと同時に，地球各圏の相互関係の解明を目指します。固体地球及びシステムとしての地殻を探究する**固体地球科学特別研究**，流体地球及びシステムとしての気圏・水圏を探究する**流体地球科学特別研究**，地球環境を総合的に捉える**地球環境特別研究**を行います。

情報科学部門：情報処理のモデルを厳密に定めて，情報処理の方法や情報の理論的分類を解明する**コンピュータ科学特別研究**，数理科学の観点から情報技術の発展を支える**数理情報科学特別研究**，多種多様な情報に対する多様な方法による特徴づけをする**ソフトウェア科学特別研究**を行います。

基礎数理部門：情報科学，地球科学と関連させながら，数学の側面から数理科学の発展を目指します。特異点論，代数幾何，可換環論，凸多面体の幾何学等の相関関係から取り組む**代数学特別研究**，低次元トポロジー，結び目理論，リーマン幾何等の相関関係から取り組む**幾何学特別研究**，変分解析，偏微分方程式論，確率論，量子ウォーク，数理現象の相関関係から取り組む**解析学特別研究**を行います。

③　３つのポリシー（地球情報数理科学専攻）

◎ディプロマポリシー（学位授与方針）

博士前期課程

地球環境部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　地球及び地球環境について，広い視野に立ち，専門的知識や自ら創造する能力を身に付けていること。

2　地球及び地球環境について，科学的な素養に基づき，問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けていること。

情報科学部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　高度情報化社会の発展に寄与するのに必要な専門知識を身に付けるとともに，自ら課題・問題を発見・解決する能力を身に付けていること。

2　豊かな独創性を備えながら，異なる考え方を受け入れられる能力を身に付けていること。

基礎数理部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　自然現象，社会現象に現れる諸問題を数学的に定式化し，数理的に分析･解析し，さらにその結果を一般社会に明瞭に説明できる能力を身に付けていること。

2　抽象的な数学概念を理解し，様々な数学的知識を駆使し，独自の研究手法によって問題に対処できる能力を身に付けていること。

博士後期課程

地球環境部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　地球及び地球環境について，広い視野に立った専門的知識を身に付け，自ら問題を発見し，独自の理論・手法開発を通じて問題解決をする高い能力を身に付けていること。

2　地球及び地球環境について，科学的な素養に基づき，問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けていること。

情報科学部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　情報科学の専門分野における深い専門知識を身に付けるとともに，当該分野において問題となっていることを深く理解し，その問題を解決する能力を身に付けていること。また，当該分野において自ら問題を発見し，独自の開発手法又は理論構築を用いて，問題を解決する高い能力を身に付けていること。

2　豊かな独創性を備えながら，異なる考え方を受け入れられる能力を身に付けていること。

基礎数理部門では，次の能力を身に付けていることを学位授与の方針とします。

1　数理科学の深い知識を基として専門分野における諸問題を発見し，その問題背景及び意義を深く追究し理解した上で，自ら研究計画を立案し，問題解決の研究を進め，学会などで口頭発表できる能力を身に付けていること。

2　豊かな独創性を備え，原理の追究，数学的証明を完遂させる能力及び他者による異なる研究手法を理解し自らの研究の位置づけを明確にできる能力を身に付けていること。

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

博士前期課程

地球情報数理科学専攻では，総合基礎科学研究科の教育研究上の目的に基づき，広い科学的学識及び専門知識を備え，社会の様々な問題に対応できる教養人を養成するため，地球環境部門，情報科学部門，基礎数理部門の３部門を設置しています。

地球各圏の相互関係及び地球を構成する物質，情報科学の基礎的側面，数学の基礎的側面（代数，幾何，解析）及び数学教育に関する理論的・実験的研究と教育を行い，流体地球科学，固体地球科学，環境地球科学，コンピュータ科学，ソフトウェア科学，数理情報科学，代数学，幾何学，解析学及びこれらの応用学問領域に重点を置いた選択授業科目を設置し，適切にリサーチワークとコースワークを組み合わせています。

また，それぞれの部門の専門科目のみだけではなく，３部門共通の科目を設置し３部門を複合したカリキュラムを編成しています。

地球情報数理科学専攻では，必修科目及び選択科目による授業科目区分を設置し，講義・演習・ゼミ等の授業形態により授業を実施しています。

また，専門地球科学講義，専門情報科学講義，専門数理科学講義における講義科目において，それぞれの分野の専門基礎知識を身に付け，３部門共通の必修科目である地球情報数理科学特論Ⅰ・Ⅱ及び特別講義において異なる分野の学問を学修しています。

地球環境部門においては，地球環境特別研究・講究をゼミ方式で実施するとともに，国内外の他研究機関や産業界の多様な研究組織と連携し実験・分析することで，地球及び地球環境科学の広範な分野を融合した応用領域における社会の要請に積極的に答えられる能力を養成していきます。

情報科学部門においては，情報科学特別研究・講究及び情報数理特別研究・講究をゼミ方式で実施するとともに，国内外の研究機関や産業界の多様な研究組織と緊密に連携し，最先端の情報技術を駆使して，情報技術に対する多様な社会的需要や問題点を調査し，独自性をもった研究課題を見出し，より専門性の高い研究成果を達成する能力を養成します。

基礎数理部門においては，基礎数理研究・講究をゼミ方式で実施し，担当教員が個別のテーマについての理解を深め，数理研究を実践するための指導を行います。また，教職志望者へは，数学教育に関する専門的知識の取得に配慮した数学教育学特論を開講しています。

また，大学院数学連携協議会単位互換制度の利用などにより，他大学で開講されている授業を履修することにより広い視野に立ち，様々な数学的思考を駆使し，独自の教育手法により問題に対処できる能力を養成します。

博士後期課程

地球情報数理科学専攻では，総合基礎科学研究科の教育研究上の目的に基づき，広い科学的学識及び専門知識を備え，社会の様々な問題に対応できる教養人を養成するため，地球環境部門，情報科学部門，基礎数理部門の３部門を設置し，地球各圏の相互関係，情報処理の方法や情報の理論的分類，基礎数学の側面から数理科学の解明及び発展に関する理論的・実験的研究を行い，それぞれの部門の専門分野のみだけではなく，３部門を複合した基礎と応用に関する理論的・実験的研究と教育を行います。

また，リサーチワークとコースワークを適切に組み合わせ，広い科学的学識，各専門分野の知識，問題解決をする高い能力を身につけるためのカリキュラムを編成しています。

地球情報数理科学専攻では，必修科目及び選択科目による授業科目区分を設置し，講義・研究指導等の授業形態により授業を実施しています。

専攻共通の必修科目である，サイエンスコミュニケーションを履修することで，自立した研究者としての考え方を学びます。

また，指導教員による各分野の専門指導の下で研究活動を行うことにより，研究成果を社会に発信する力を身につけるとともに，研究課題に取り組み，博士学位論文を作成します。

地球環境部門においては，該当分野の指導教員による研究指導を実施するとともに，国内外の他研究機関や産業界の多様な研究組織と連携し実験・分析することで，広い視野に立ち，知識･学問とともに，新たな知識や創造ができ，異なる分野も含めてそれらを表現，発信できる能力を養成しています。

情報科学部門においては，該当分野の指導教員による研究指導を実施するとともに，国内外の研究機関や産業界の多様な研究組織と緊密に連携し，最先端の情報技術を駆使して，情報技術に対する多様な社会的需要や問題点を調査し，独自性をもった研究課題を見出し，より専門性の高い研究成果を達成する能力を養成します。

基礎数理部門においては，該当分野の指導教員による研究指導を実施するとともに，国内外の研究者との連帯及び研究交流を通じて最新の研究状況を把握し，総合的な見地から研究対象を理解できる能力を養成します。

また，学内外のセミナー活動にて研究発表を行い，専門家に対して自身の研究成果を正確に伝える能力はもとより，非専門家にも自身の研究を伝える能力，及び研究コミュニケーション能力を養成します。

◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れに関する方針）

博士前期課程

地球情報数理科学専攻は，地球環境学，情報科学，数理科学及びそれらが相互に融合した学際的分野において，創造力と幅広い視野を合わせ持ち，社会に対して積極的に貢献できる有能な研究者・技術者・教育者を養成することを目的とします。本専攻では，これま

で人類が築いてきた知識・学問を継承・発展させるとともに，強い探究心・研究意欲を持ち，社会の発展に貢献したいという熱意を持ち続けられる学生を求めています。

具体的には，次のような学生の入学を希望します。

・英語能力を含む基礎学力を備え，真理探究のための不断の努力ができる学生
・常に広い視野を持ち，知識の吸収及び創造する姿勢を有する学生
・コミュニケーションを通じて，異なる考え方を尊重できる学生
・研究者・技術者・教育者として社会への貢献を目指す学生

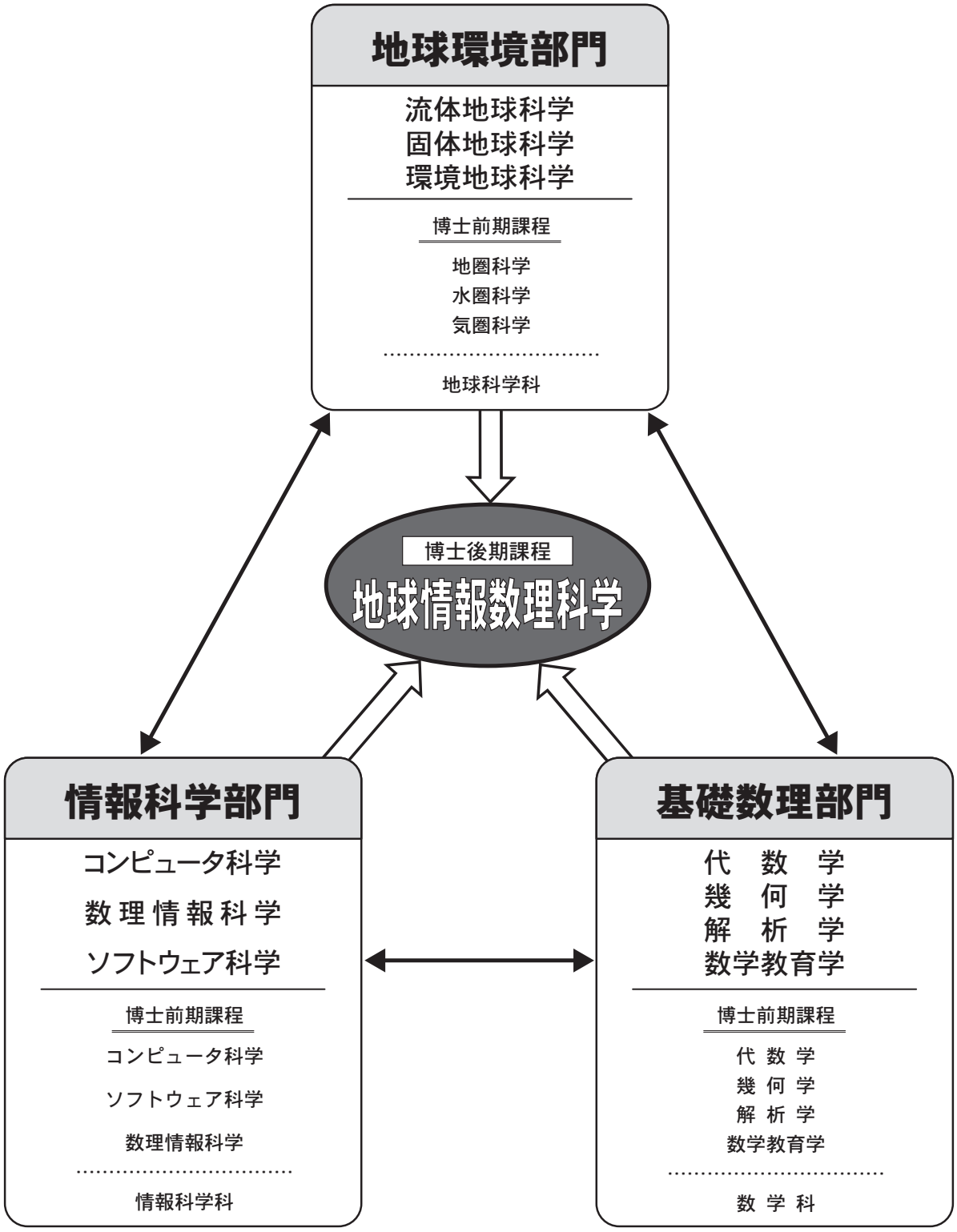
博士後期課程

地球情報数理科学専攻は，地球環境学，情報科学，数理科学及びそれらが相互に融合した学際的分野において，創造力と幅広い視野を合わせ持ち，社会に対して積極的に貢献できる有能な研究者・技術者・教育者を養成することを目的とします。本専攻では，これまで人類が築いてきた知識・学問を継承・発展させるとともに，強い探究心・研究意欲を持ち，独自に研究を推進する能力を有し，かつ，社会の発展に貢献したいという熱意を持ち続けられる学生を求めています。

具体的には，次のような学生の入学を希望します。

・英語能力を含む基礎学力を備え，真理探究のための不断の努力ができる学生
・常に広い視野を持ち，知識の吸収及び創造する姿勢を有する学生
・コミュニケーションを通じて，異なる考え方を尊重できる学生
・研究者・技術者・教育者として社会への貢献を目指す学生

地球情報数理科学専攻
既設学科・課程との関連図



2 相関理化学専攻

① 博士前期課程

相関理化学専攻は，物理学，生命科学，並びに化学を主な研究分野とし，これら３分野の複合化を目指します。

本専攻は，物理学部門，生命科学部門及び化学部門から成り，この３部門が学際的に協力し合うことを目標としています。

物理学部門：物理学の基礎と応用に関する理論的・実験的研究

高圧や高温などの幅広い環境下での物質系の構造・機能を解明する物性物理学，統計力学や量子力学を駆使して自然界の相互作用を解析する数理物理学，光及び荷電粒子の相互作用やエネルギーを探求する光・プラズマ物理学などをテーマとして研究を行います。

生命科学部門：生命科学の基礎と応用に関する理論的・実験的研究

ミクロからマクロに至る各階層における様々な生命現象に関して，情報科学，計算科学や分子生物学，細胞生物学，発生学，生化学，生理学，生物物理学などに基づき理論的・実験的研究を行います。分子・細胞レベルでは計算機支援創薬・光合成，組織・器官レベルでは分化・発生や遺伝子発現メカニズム・脳の学習記憶メカニズム，個体・生態レベルでは植物の生存戦略や進化・多様性などをテーマとして研究を行います。

化学部門：化学の基礎と応用に関する理論的・実験的研究

有機・無機分子や結晶のみならず，固体表面やクラスター，超格子，メゾスコピック系の物質の性質を解明するとともに機能性新物質を開発し，それらの物性を解析します。また，動植物から環境物質に至るまで，様々な天然物質についての機能とそれらを内包する系の機構の解明をテーマとして研究を行います。

② 博士後期課程

相関理化学専攻は，ミクロからマクロにいたる幅広い物質系の構造・相互作用・反応・機能などを対象とした基礎と応用に関する理論的・実験的研究を中心に行う場であり，学術的に相互に補完する物理学部門，生命科学部門及び化学部門の３部門で構成されています。３部門の内容は以下のとおりです。

物理学部門：自然界の基本法則と物理現象の理論的・実験的解明を目指します。場の量子論などの数理モデルを駆使して，自然界の基本法則と宇宙の構造を解明する**数理物理学特別研究**，実験と理論を組み合わせて，機能性新物質の創製と，超伝導など量子秩序相の物性を解明する**物性科学特別研究**，物質を構成する要素間の相互作用により生じる複雑な現象を，物理モデルに基づき解明する**複雑系科学特別研究**を行います。

生命科学部門：さまざまな生命現象に関する理論的・実験的解明を目指します。昆虫の脱皮・変態や休眠メカニズムなど動物の生理現象の基盤を解明する**生理科学特別研究**，環境と植物の相

互作用および進化のメカニズムなどを追求する**進化・生態学特別研究**，計算機支援創薬のための技術開発や生体分子の機能及び生物多様性の基盤となる細胞の分化・増殖の調節機構などを解明する**分子細胞生物学特別研究**を行います。

化学部門：化学の基礎と応用に関する理論的・実験的研究を目指します。動植物から環境物質に至るまで，様々な天然物質についての機能とそれらを内包する系の機構を追求する**分子機能化学特別研究**，新しい機能性・生理活性物質の合成と構造決定並びに反応機構を追求する**分子制御化学特別研究**，機能性新物質の開発と物性を追求する**分子創製化学特別研究**を行います。

③　３つのポリシー（相関理化学専攻）

◎ディプロマポリシー（学位授与方針）

相関理化学専攻では，自然と科学との調和を考えるという理念のもとに，自然の摂理に対する理解を深めること，環境にやさしい科学・技術を探求することを教育・研究の目標とし，科学を通じて社会に貢献できる人材に学位を授与します。

博士前期課程

自然科学に関する幅広い知識や技能を習得し，論理的に物事を考える能力並びにコミュニケーション能力を身に付け，自らの知識と技能を実社会に生かそうとする姿勢を持つこと，及び所定の教育課程を修め，提出された学位論文が先行研究を踏まえ，十分なデータあるいは正しい理論の展開に基づいて，新しい知見を提供するものであることが課程修了の基準です。

博士後期課程

自然や社会における課題を発見し，専門分野の知識に基づいて解決策を立案し遂行できる能力，健全な倫理観を持ち，科学を通じて社会に貢献できる能力と学識を有すること，提出された学位論文が先行研究を踏まえ，十分なデータあるいは正しい理論の展開に基づいて，新しい知見を提供するものであることが課程修了の基準です。

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

博士前期課程

相関理化学専攻では，物理学，生命科学，化学の３部門を設置し，ミクロからマクロにいたる幅広い物質系，生命系の構造・相互作用・反応・機構等の基礎と応用に関する理論的・実験的研究と教育を行います。学際的領域を広くカバーした相関理化学専攻共通の多彩な選択授業科目を設置し，適切にリサーチワークとコースワークを組み合わせています。

また,指導教員による専門指導の下に最先端の研究活動を行うことにより,論理的思考能力,自己解決能力を修得させると同時に，プレゼンテーション力・コミュニケーション力の強化にも重点を置いたカリキュラムを編成しています。

相関理化学専攻では，必修科目及び選択科目による授業科目区分を設置し，講義・演習・ゼミ等の授業形態により授業を実施しています。

物理系，生命系及び化学系分野の選択科目ならびに他専攻・他研究科の科目を履修することで各研究分野の最先端を学び，物理学・生命科学・化学特別研究・講究研究科目では，指導教員による専門指導の下で研究に必要な専門知識を学びます。

各研究室・研究グループではセミナー等への参加を通じて研究の進捗状況を報告し，得られた結果について討論し，教員の指導の下に修士論文の書き方と同時に，発表・討論を実践的に学びます。

また，学外の研究者による大学院特別講義を受講し，最前線の理化学研究について幅広く学びます。

博士後期課程

相関理化学専攻は，幅広い科学的知識及び専門知識を備えた教養人を養成するために，物理学部門，生命科学部門，化学部門の３部門を設置し，ミクロからマクロにいたる幅広い物質系，生命系の構造・相互作用・反応・機構等の基礎と応用に関する理論的・実験的研究と教育を行います。

また，リサーチワークとコースワークを適切に組み合わせ，専門分野の知識に基づいて解決策を立案し遂行できる能力，健全な倫理観を持ち，科学を通じて社会に貢献できる能力を身につけるためのカリキュラムを編成しています。

相関理化学専攻では，必修科目及び選択科目による授業科目区分を設置し，講義・研究指導等の授業形態により授業を実施しています。

専攻共通の必修科目である，サイエンスコミュニケーションを履修することで，自立した研究者としての考え方を学びます。

また，指導教員による専門指導の下に最先端の研究活動を行うことにより，論理的思考能力，自己解決能力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力を身につけるとともに，研究課題に取り組み，博士学位論文を作成します。

さらに，研究発表などのトレーニングを通じて，テーマ設定や競争的研究資金獲得を自ら行うことができる自立した研究者としての力を身につけます。

◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れに関する方針）

相関理化学専攻は，物理学，生命科学，化学の各分野，又はそれらを相互に融合した分野に強い好奇心を持ち，粘り強く自然の摂理に対する理解を深めようとする学生，自然科学と先端技術の融合により，人類が直面する様々な問題に対処しようと意欲を燃やす学生を受け入れます。

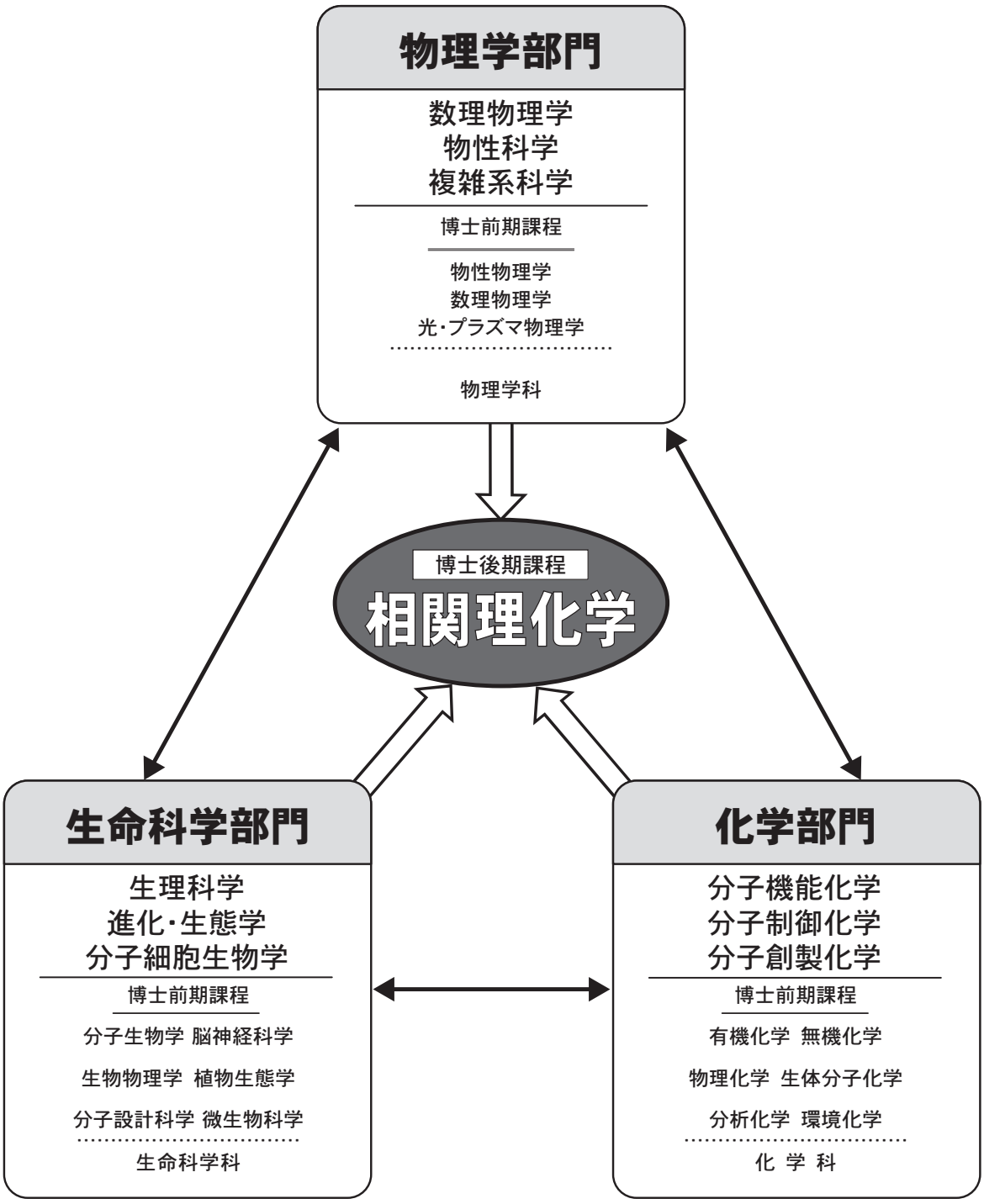
博士前期課程

物理学，生命科学，化学の各分野，又はそれらを相互に融合した分野の基礎的な知識を習得した上で，さらに自然の摂理に対する理解を深めようとする学生を迎え入れます。

博士後期課程

博士後期課程では，前期課程に引き続き，指導教員による研究指導のもとに専門分野における研究課題に取り組み，博士学位論文の作成を目指します。研究発表などのトレーニングを通じて，テーマ設定や競争的研究資金獲得を自ら行うことができる自立した研究者の養成を目指します。

相関理化学専攻
既設学科・課程との関連図



◆令和８年度　大学院担当教員一覧

本一覧は令和８年４月１日時点のものです。

《地球情報数理科学専攻》

〈地球環境部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
竹　内　真　司	教　　授	環境地質学，物質移行科学
竹　村　貴　人	教　　授	地殻力学（ジオメカニクス），構造地質学
三　隅　良　平	教　　授	気象学（雲物理学），気象災害
安　井　真　也	教　　授	火山学（火山地質）
山　中　　勝	教　　授	水文学，地球化学
金　丸　龍　夫	准 教 授	岩石学，岩石磁気学
中　尾　有利子	准 教 授	進化古生物学，動物分類学
村　瀬　雅　之	准 教 授	測地学，火山学

〈情報科学部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
尾　崎　知　伸	教　　授	データマイニング
尾　上　洋　介	教　　授	情報可視化
北　原　鉄　朗	教　　授	音メディア情報処理
谷　　聖　一	教　　授	計算論的位相幾何学，情報科学教育
古　市　　茂	教　　授	情報理論，行列解析，不等式
宮　田　章　裕	教　　授	インタラクション，ヒューマンインタフェース
森　山　園　子	教　　授	数理計画，組合せ幾何学
大　澤　正　彦	准 教 授	人工知能
中　原　泳　清	准 教 授	画像メディア処理，機械学習
前　澤　俊　一	准 教 授	グラフ理論

〈基礎数理部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
市　原　一　裕	教　　授	低次元トポロジー，双曲幾何学
井　手　勇　介	教　　授	確率論，グラフ上の確率モデル
大　関　一　秀	教　　授	可換環論
茂手木　公　彦	教　　授	低次元トポロジー
山　浦　義　彦	教　　授	変分解析，偏微分方程式
山　崎　浩　二	教　　授	数学教育学
吉　田　健　一	教　　授	可換環論
大　野　晋　司	准 教 授	リーマン幾何学，部分多様体論
齋　藤　　渓	准 教 授	数理モデル，スペクトル解析

《相関理化学専攻》

〈物理学部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
阿　部　伸　行	教　授	強相関固体物性
上　岡　隼　人	教　授	光物性物理学
十　代　　健	教　授	物理化学
千　葉　　剛	教　授	宇宙物理学理論
橋　本　拓　也	教　授	固体エネルギー工学，固体材料化学，固体熱力学
村　田　佳　樹	教　授	素粒子論・弦理論
山　本　大　輔	教　授	量子物性理論
川　上　隆　輝	准 教 授	物性物理学実験
玉　岡　幸太郎	准 教 授	量子重力・量子情報

〈生命科学部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
井　上　みずき	教　授	森林生態学
岩　本　政　明	教　授	微生物学
澤　田　博　司	教　授	動物代謝生理学，生化学
外　川　　徹	教　授	分子生物学，分子内分泌学
間　瀬　啓　介	教　授	遺伝学
安　原　徳　子	教　授	分子細胞生物学
黒　田　大　祐	准 教 授	バイオインフォマティクス

〈化学部門〉

担当教員	職　名	専　門　分　野
垣　田　浩　孝	教　授	生物化学，酵素化学，藻類学
桒　原　正　靖	教　授	生物分析化学，核酸化学，化学生物学
周　　彪	教　授	機能物質化学，無機化学，物理化学，錯体化学
早　川　一　郎	教　授	天然物合成化学，有機合成化学
藤　森　裕　基	教　授	物性物理化学
吉　田　　純	教　授	機能物質化学・分子集合化学
岩　堀　史　靖	准 教 授	固体物性化学
嶋　田　修　之	准 教 授	反応有機化学，分子触媒化学，有機合成化学

令和８年度　博士前期課程科目一覧

地球情報数理科学専攻

令和８年４月１日現在

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	備考
地球情報数理科学特論Ⅰ	2	2		
地球情報数理科学特論Ⅱ	2	2		
地球物理特論Ⅰ	2		2	
地球物理特論Ⅱ	2		2	
地球生物学特論Ⅰ	2		2	
環境情報特論	2		2	
地質科学特論Ⅰ	2		2	
地質科学特論Ⅱ	2		2	
地球物質科学Ⅰ	2		2	
地球物質科学Ⅱ	2		2	
地球化学特論Ⅰ	2		2	
地球化学特論Ⅱ	2		2	
水圏科学特論Ⅰ	2		2	
水圏科学特論Ⅱ	2		2	
気圏科学特論Ⅰ	2		2	
気圏科学特論Ⅱ	2		2	
地球環境特別演習	2		2	
コンピュータ科学特論Ⅰ	2		2	
コンピュータ科学特論Ⅱ	2		2	
コンピュータ科学特論Ⅲ	2		2	
ソフトウェア科学特論Ⅰ	2		2	
ソフトウェア科学特論Ⅱ	2		2	
ソフトウェア科学特論Ⅲ	2		2	
数理情報科学特論Ⅰ	2		2	
数理情報科学特論Ⅱ	2		2	
数理情報科学特論Ⅲ	2		2	
数理情報科学特論Ⅳ	2		2	
代数学特論Ⅰ	2		2	
代数学特論Ⅱ	2		2	
幾何学特論Ⅰ	2		2	
幾何学特論Ⅱ	2		2	
解析学特論Ⅰ	2		2	
解析学特論Ⅱ	2		2	
確率統計特論Ⅰ	2		2	
確率統計特論Ⅱ	2		2	
数学教育学特論Ⅰ	2		2	
数学教育学特論Ⅱ	2		2	

数学教育学特論Ⅲ	2		2	
数学教育学特論Ⅳ	2		2	
数学特別講義Ⅰ	2		2	
数学特別講義Ⅱ	2		2	
現代数学概論Ⅰ	2		2	
現代数学概論Ⅱ	2		2	
現代数学概論Ⅲ	2		2	
特別講義	2		2	
地球環境特別研究Ⅰ	4		4	A群
地球環境特別研究Ⅱ	4		4	
地球環境特別講究Ⅰ	1		1	
地球環境特別講究Ⅱ	1		1	
地球環境特別講究Ⅲ	1		1	
地球環境特別講究Ⅳ	1		1	
情報科学特別研究Ⅰ	4		4	B群
情報科学特別研究Ⅱ	4		4	
情報科学特別講究Ⅰ	1		1	
情報科学特別講究Ⅱ	1		1	
情報科学特別講究Ⅲ	1		1	
情報科学特別講究Ⅳ	1		1	
情報数理特別研究Ⅰ	4		4	C群
情報数理特別研究Ⅱ	4		4	
情報数理特別講究Ⅰ	1		1	
情報数理特別講究Ⅱ	1		1	
情報数理特別講究Ⅲ	1		1	
情報数理特別講究Ⅳ	1		1	
基礎数理特別研究Ⅰ	4		4	D群
基礎数理特別研究Ⅱ	4		4	
基礎数理特別講究Ⅰ	1		1	
基礎数理特別講究Ⅱ	1		1	
基礎数理特別講究Ⅲ	1		1	
基礎数理特別講究Ⅳ	1		1	
教職実践	1		1	
学位論文				

履 修 方 法：必要単位数4単位を含め，合計30単位以上を修得しなければならない。A群，B群，C群及びD群のいずれかを選択し，特別研究Ⅰ，Ⅱの8単位，特別講究Ⅰ～Ⅳの4単位を修得しなければならない。

他専攻聴講等：他専攻・他研究科又は，他大学院の授業科目の履修により修得した単位及び，本研究科入学前既修得単位は，10単位を上限として，修了に必要な単位数に参入することができる。

令和８年度　博士前期課程科目一覧

相関理化学専攻

令和８年４月１日現在

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	備考
相関理化学特論	2		2	
相対性理論特論	2		2	
統計物理学特論	2		2	
原子核・プラズマ特論	2		2	
凝縮系物理学特論	2		2	
固体スペクトロスコピー	2		2	
複雑系科学特論	2		2	
生物分子モーター科学特論	2		2	
物性物理学特論	2		2	
レーザー・電子光学特論	2		2	
量子力学特論	2		2	
超伝導科学特論	2		2	
生物エネルギー科学特論	2		2	
ナノサイエンス特論	2		2	
錯体化学特論	2		2	
生命情報学特論	2		2	
光化学反応特論	2		2	
物性化学特論	2		2	
分子物性特論	2		2	
分子細胞生物学実験特論	2		2	
バイオ分析化学特論	2		2	
反応有機化学特論	2		2	
有機金属化学特論	2		2	
触媒化学特論	2		2	
生体分子化学特論	2		2	
天然機能分子化学特論	2		2	
動物生理学特論	2		2	
生態環境化学特論	2		2	
糖質化学特論	2		2	
タンパク質化学特論	2		2	
動物遺伝生理学特論	2		2	
構造無機化学特論	2		2	
物理有機化学特論	2		2	
量子化学特論	2		2	
電子化学特論	2		2	
現代生態学特論	2		2	

細胞内ダイナミクス特論	2		2	
特別講義Ⅰ	2		2	
特別講義Ⅱ	2		2	
物理学特別研究Ⅰ	2		2	A群
物理学特別研究Ⅱ	2		2	
物理学特別研究Ⅲ	2		2	
物理学特別研究Ⅳ	2		2	
物理学特別講究Ⅰ	1		1	
物理学特別講究Ⅱ	1		1	
物理学特別講究Ⅲ	1		1	
物理学特別講究Ⅳ	1		1	
生命科学特別研究Ⅰ	2		2	B群
生命科学特別研究Ⅱ	2		2	
生命科学特別研究Ⅲ	2		2	
生命科学特別研究Ⅳ	2		2	
生命科学特別講究Ⅰ	1		1	
生命科学特別講究Ⅱ	1		1	
生命科学特別講究Ⅲ	1		1	
生命科学特別講究Ⅳ	1		1	
化学特別研究Ⅰ	2		2	C群
化学特別研究Ⅱ	2		2	
化学特別研究Ⅲ	2		2	
化学特別研究Ⅳ	2		2	
化学特別講究Ⅰ	1		1	
化学特別講究Ⅱ	1		1	
化学特別講究Ⅲ	1		1	
化学特別講究Ⅳ	1		1	
教職実践	1		1	
学位論文				

履 修 方 法：30単位以上を修得しなければならない。A群, B群及びC群のいずれかを選択し, 特別研究Ⅰ～Ⅳの8単位, 特別講究Ⅰ～Ⅳの4単位を修得しなければならない。

他専攻聴講等：他専攻・他研究科又は, 他大学院の授業科目の履修により修得した単位及び, 本研究科入学前既修得単位は, 10単位を上限として, 修了に必要な単位数に参入することができる。

令和８年度　博士後期課程研究指導科目一覧

地球情報数理科学専攻

令和８年４月１日現在

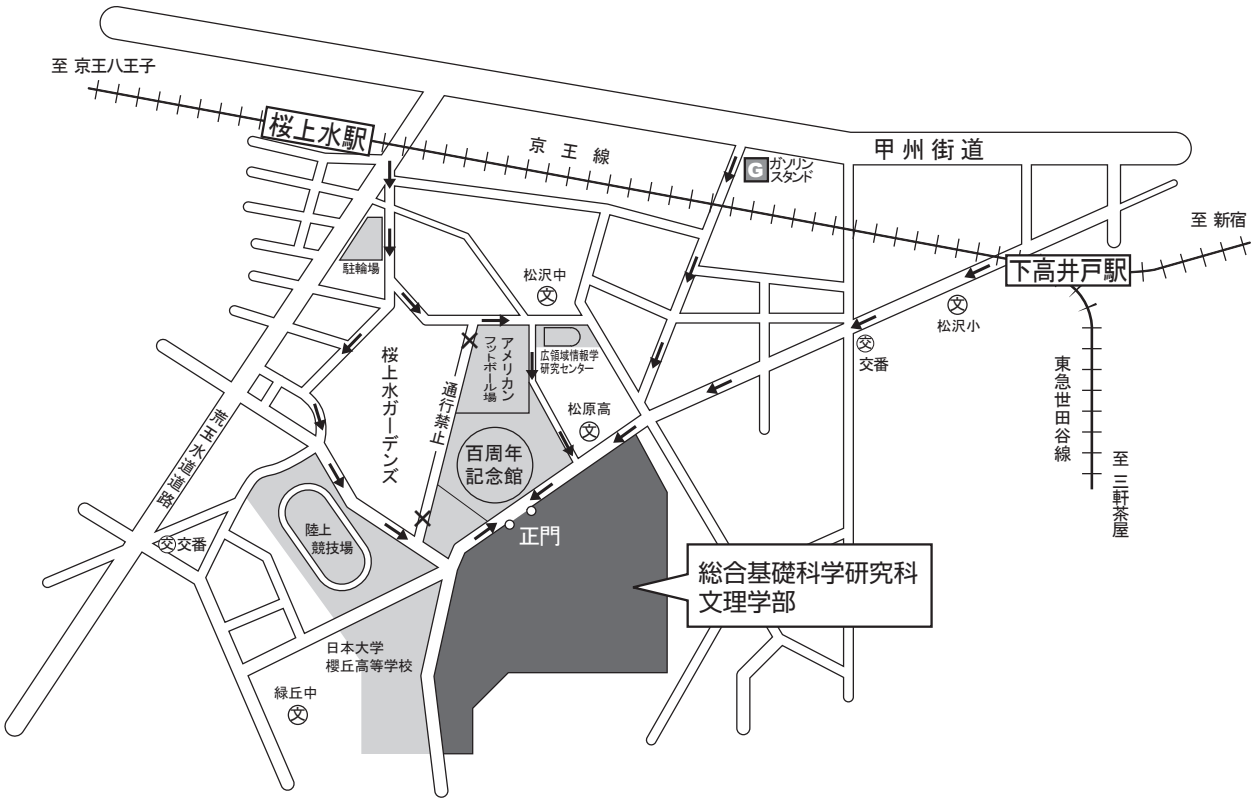
授　業　科　目	単位数	必　修 単位数	選　択 単位数	備　　考
サイエンスコミュニケーション 固体地球科学特別研究 流体地球科学特別研究 地球環境特別研究 コンピュータ科学特別研究 数理情報科学特別研究 ソフトウェア科学特別研究 代数学特別研究 幾何学特別研究 解析学特別研究 学位論文	2	2		左記のうちから必修単位数２単位を修得し，専攻科目を定め，当該学科目の指導教授による研究指導を受けなければならない。

相関理化学専攻

授　業　科　目	単位数	必　修 単位数	選　択 単位数	備　　考
サイエンスコミュニケーション 数理物理学特別研究 物性科学特別研究 複雑系科学特別研究 分子機能化学特別研究 分子制御化学特別研究 分子創製化学特別研究 生理科学特別研究 進化・生態学特別研究 分子細胞生物学特別研究 学位論文	2	2		左記のうちから必修単位数２単位を修得し，専攻科目を定め，当該学科目の指導教授による研究指導を受けなければならない。

日本大学大学院総合基礎科学研究科

文理学部所在地略図



〒 156－8550 東京都世田谷区桜上水 3－25－40

☎０３－５３１７－８４９７

京王線：下高井戸駅又は桜上水駅下車 徒歩 8 分

※下高井戸駅は，新宿駅から約 10 分，各駅停車・快速が停車します。

※桜上水駅は，新宿駅から約 12 分，各駅停車・快速・区間急行・急行が停車します。

東急世田谷線：下高井戸駅下車 徒歩 8 分

総合基礎科学研究科ホームページアドレス

https://www.chs.nihon-u.ac.jp/gs-ibs/